

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程 商業実務	総合情報ビジネス科	夜・通信	171.0 時間	160.0 時間	
工業専門課程	モバイルアプリケーション科	夜・通信	342.0 時間	160.0 時間	
	情報システム科	夜・通信	256.5 時間	160.0 時間	
	AIシステムエンジニア科	夜・通信	370.5 時間	240.0 時間	
	ネットワークシステム科	夜・通信	256.5 時間	160.0 時間	
	サイバーセキュリティ科	夜・通信	427.5 時間	240.0 時間	
	AIテクノロジーエンジニア科	夜・通信	313.5 時間	240.0 時間	
	高度ITエンジニア科	夜・通信	370.5 時間	320.0 時間	
	建築科	夜・通信	228.0 時間	160.0 時間	
	建築大工技能科	夜・通信	570.0 時間	160.0 時間	
	インテリア科	夜・通信	171.0 時間	160.0 時間	
	電気工事科	夜・通信	342.0 時間	160.0 時間	
	機械CAD設計科	夜・通信	342.0 時間	160.0 時間	
文化・教養専門課程	ゲームクリエイター科	夜・通信	171.0 時間	160.0 時間	
	ゲームエンジニア科	夜・通信	399.0 時間	240.0 時間	
	CGクリエイター科	夜・通信	256.5 時間	160.0 時間	
	Webクリエイター科	夜・通信	285.0 時間	160.0 時間	

	デジタルデザイン科	夜・通信	228.0 時間	160.0 時間	
	デジタルミュージック科	夜・通信	228.0 時間	160.0 時間	
	映像放送科	夜・通信	285.0 時間	160.0 時間	
	音響制作科	夜・通信	228.0 時間	160.0 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

・ホームページにて公表

https://www.jc-21.ac.jp/publish/coinfo_2023/#jitumu

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

・ホームページにて公表

https://www.jc-21.ac.jp/pdf/rijiimeibo_2023.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	【現職】(株)JC-21 教育センター 取締役	令和3年9月28日～令和5年9月27日	総務担当
非常勤	【前職】宮城県漁業協同組合女川町支所長	令和3年9月28日～令和5年9月27日	コンプライアンス担当
非常勤	【現職】東北大学特定認定再生医療等委員会委員	令和3年9月28日～令和5年9月27日	広報担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>① 教育課程編成委員会の設置 カリキュラム(教育課程)の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 各学科の教員によりカリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」(年に2回以上開催)において、現行カリキュラム及び1.で作成した改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2.で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>・ホームページにて公表 https://www.jc-21.ac.jp/publish/coinfo_2023/index.html#syllabus</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物(作品)および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準として100点法で評価する。 ・100点法で評価した評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法(5~1)の評定を行う。 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。 	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【成績評価】

- ・出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準として100点法で評価する。
- ・100点法で評価した評価点をもとに、以下の基準で5段階法（5～1）の評定を行う。

評定 5段階	評価点 100点法	評価基準	合否
5	90以上	到達すべき目標を十分に達成し卓越した成果をあげた	合格
4	80～89	到達すべき目標を十分に達成し優れた成果をあげた	
3	70～79	到達すべき目標をおおむね達成した	
2	60～69	到達すべき目標を最低限達成したが不十分な点もみられる	
1	59以下	到達すべき目標を達成していない	不合格

【履修時間・単位の認定】

- ・学則に定められた各科目について、その評定が合格の場合、履修時間及び単位を認定する。
- ・認定する履修時間及び単位数は、学則における各学科の教育課程に示された数とする。

【学習成績、出席状況の把握】

- ・100点法による評価点、5段階法による評定点、評定平均、成績ランク、出席時間数、欠席時間数、出席率を記載した成績一覧表を、学科、学年、コースごとに作成し、成績不振および学習意欲が低下している生徒を把握する。
- ・各科目の5段階法による評定、成績ランク、出欠状況等を記載した、成績表を前期期末（10月）並びに後期期末（卒業学年：2月、進級学年：3月）に保護者宛て送付し家庭の理解や協力を求める。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

- ・ホームページにて公表
<https://www.jc-21.ac.jp/pdf/gpa.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)	
<p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学則に定める教育課程をすべて受講し、その成績評定が合格であること。 ・年間 800 時間以上履修していること。 ・毎年 3 月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。 <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学則に定める教育課程をすべて受講し、その成績評定が合格であること。 ・2 年課程は 1,700 時間以上、3 年課程は 2,400 時間以上、4 年課程は 3,400 時間以上履修していること。 ・毎年 2 月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。 	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページにて公表 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/sotsugyo.pdf

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	・ ホームページにて公表 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/taisyaku_2022.pdf
収支計算書又は損益計算書	・ ホームページにて公表 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/keisan_2022.pdf
財産目録	・ ホームページにて公表 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/zaisan_2022.pdf
事業報告書	・ ホームページにて公表 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/jigyou_2022.pdf
監事による監査報告（書）	・ ホームページにて公表 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/kansa_2022.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務専門課程	総合情報ビジネス科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	1111.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1396.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2536.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120 人	90 人	0 人	4 人	3 人	7 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
3. 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																																							
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																																				
46 人 (100%)	0 人 (0%)	44 人 (95.7%)	2 人 (4.3%)																																				
(主な就職、業界等) 株式会社エイブル、株式会社ヨークベニマル、国土交通省 東北運輸局、株式会社ヨドバシカメラ																																							
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																																							
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報）																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日商簿記検定 3級</td> <td>③</td> <td>46人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>ITパスポート試験</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>リテールマーケティング（販売士）検定 3級</td> <td>③</td> <td>27人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>日本語ワープロ検定 2級</td> <td>③</td> <td>24人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>文書デザイン検定 1級</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス実務マナー検定 3級</td> <td>③</td> <td>46人</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション検定 初級</td> <td>③</td> <td>45人</td> <td>39人</td> </tr> <tr> <td>Microsoft Office Specialist Excel</td> <td>③</td> <td>46人</td> <td>46人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	日商簿記検定 3級	③	46人	18人	ITパスポート試験	③	15人	1人	リテールマーケティング（販売士）検定 3級	③	27人	15人	日本語ワープロ検定 2級	③	24人	13人	文書デザイン検定 1級	③	22人	22人	ビジネス実務マナー検定 3級	③	46人	23人	コミュニケーション検定 初級	③	45人	39人	Microsoft Office Specialist Excel	③	46人	46人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																				
日商簿記検定 3級	③	46人	18人																																				
ITパスポート試験	③	15人	1人																																				
リテールマーケティング（販売士）検定 3級	③	27人	15人																																				
日本語ワープロ検定 2級	③	24人	13人																																				
文書デザイン検定 1級	③	22人	22人																																				
ビジネス実務マナー検定 3級	③	46人	23人																																				
コミュニケーション検定 初級	③	45人	39人																																				
Microsoft Office Specialist Excel	③	46人	46人																																				
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																																							
(備考) (任意記載事項) MOS世界学生大会 入賞、ビジネス実務マナー検定成績優秀者 表彰																																							

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
97 人	3 人	3.1 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	モバイルアプリケーション科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	370.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1852.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	14 人	0 人	5 人	2 人	7 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																							
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																				
12 人 (100%)	0 人 (0%)	12 人 (100%)	0 人 (0%)																				
(主な就職、業界等) (株)メンバーズ (株)ネクサスソリューション (株)ビッツ 他IT系企業																							
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																							
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報）																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Javaプログラミング能力認定試験 3級</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>3人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>ITパスポート</td> <td>②</td> <td>6人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>Webデザイナー検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	Javaプログラミング能力認定試験 3級	③	12人	10人	基本情報技術者試験	②	3人	2人	ITパスポート	②	6人	3人	Webデザイナー検定 ベーシック	③	1人	1人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
Javaプログラミング能力認定試験 3級	③	12人	10人																				
基本情報技術者試験	②	3人	2人																				
ITパスポート	②	6人	3人																				
Webデザイナー検定 ベーシック	③	1人	1人																				
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																							
(備考) (任意記載事項)																							

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
21 人	0 人	0 %
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2166.0 単位時間／単位	1624.5 単位時間／単位	114.0 単位時間／単位	969.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2707.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
200 人		261 人	5 人	4 人	1 人	5 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
87 人 (100%)	0 人 (0%)	81 人 (93.1%)	7 人 (8%)
(主な就職、業界等) サイバーコム株式会社 富士ソフト株式会社 株式会社システナ セコムトラストシステムズ株式会社 株式会社トイ インクス			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシート の書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報）			
資格・検定名	種別	受験 者数	合格 者数
基本情報技術者試験	②	45	23
応用情報技術者試験	②	5	2
ITパスポート試験	②	40	13
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
229 人	22 人	9.6 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、学校生活不適應、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルズ講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	AIシステムエンジニア科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3192.0 単位時間／単位	3135.0 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1140.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			4303.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
150 人	89 人	0 人	3 人	2 人	5 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
33 人 (100%)	0 人 (0%)	29 人 (87.9%)	4 人 (12.1%)
(主な就職、業界等) 株式会社NTTデータ グローバルソリューションズ、株式会社トイックス、サイバーコム株式会社			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報）			
	種別	受験者数	合格者数
資格・検定名			
基本情報技術者試験	②	31	22
応用情報技術者試験	②	23	3
データベーススペシャリスト	②	1	1
Oracle Certified Java Programmer, Bronze	③	16	13
Javaプログラミング能力認定試験 2級	③	5	4
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
101 人	8 人	7.9 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、就職、病気、その他		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ネットワークシステム科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2166.0 単位時間／単位	997.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1339.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2365.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		31 人	0 人	8 人	1 人	9 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																
22 人 (100%)	0 人 (0%)	22 人 (100%)	0 人 (0%)																
(主な就職、業界等) NTT東日本グループ会社、リコージャパン株式会社等、ネットワーク運用・管理を行う企業。																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報）																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>13人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>情報セキュリティマネジメント試験</td> <td>②</td> <td>22人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>CompTIA IT Fundamentals</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>4人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	②	13人	8人	情報セキュリティマネジメント試験	②	22人	4人	CompTIA IT Fundamentals	③	22人	4人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
基本情報技術者試験	②	13人	8人																
情報セキュリティマネジメント試験	②	22人	4人																
CompTIA IT Fundamentals	③	22人	4人																
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																			
(備考) (任意記載事項)																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
37 人	2 人	5.4 %
(中途退学の主な理由) 学業不振 就職		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	サイバーセキュリティ科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3192.0 単位時間／単位	2052.0 単位時間／単位	313.5 単位時間／単位	1539.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			3904.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
90 人	62 人	2 人	9 人	2 人	11 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15 人 (100%)	0 人 (0%)	13 人 (86.7%)	2 人 (13.3%)
(主な就職、業界等) CTCテクノロジー株式会社、TISシステムサービス株式会社、株式会社トインクス			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報）			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
基本情報技術者試験	②	15人	8人
情報セキュリティマネジメント試験	②	14人	8人
SEA/J 基礎コース試験	③	13人	6人
SEA/J 応用コースマネジメント試験	③	8人	3人
SEA/J 応用コーステクニカル試験	③	3人	3人
Cisco Certified Network Associate	③	3人	3人
LinuC Level1	③	2人	2人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
65 人	3 人	4.6 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	A Iテクノロジーエンジニア科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	3192.0 単位時間/単位	2194.5 単位時間/単位	285.0 単位時間/単位	912.0 単位時間/単位	0.0 単位時間/単位	0.0 単位時間/単位
			3391.5 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		26 人	1 人	6 人	5 人	11 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																
12 人 (100%)	0 人 (0%)	12 人 (100%)	0 人 (0%)																
(主な就職、業界等) 日立Astemo仙台株式会社、株式会社マイスターエンジニアリング																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報）																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AI検定</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>画像処理エンジニア ベーシック</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>12人</td> <td>6人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	AI検定	③	8人	4人	画像処理エンジニア ベーシック	③	11人	5人	基本情報技術者試験	②	12人	6人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
AI検定	③	8人	4人																
画像処理エンジニア ベーシック	③	11人	5人																
基本情報技術者試験	②	12人	6人																
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																			
(備考) (任意記載事項)																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31 人	2 人	6.5 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	高度ITエンジニア科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	4218.0 単位時間／単位	2935.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	2308.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			5272.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120 人	115 人	0 人	7 人	3 人	10 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25 人 (100%)	0 人 (0%)	25 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 株式会社コー・ワークス、株式会社式会社NEXCOシステムソリューションズ、株式会社SIG、株式会社日立産業制御ソリューションズ、IT関連企業			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報）			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
基本情報技術者試験	②	24	17
応用情報技術者試験	②	18	6
情報処理安全確保支援士	②	6	4
AWS認定クラウドプラクティショナー	③	25	10
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
114 人	4 人	3.5 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、病気・けが、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	建築科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	1054.5 単位時間／単位	256.5 単位時間／単位	1168.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2479.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80 人	39 人	0 人	1 人	8 人	9 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
19 人 (100%)	1 人 (5.3%)	16 人 (84.2%)	2 人 (10.5%)
(主な就職、業界等) タカカツ 阿部建設 エイブル 東建コーポレーション ヤマダホームズ パルコホームなど等建設業界			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報）			
	種別	受験者数	合格者数
資格・検定名			
2級建築施工管理検定	②	19	5
2次元CAD基礎	③	19	15
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
40 人	1 人	2.5 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	建築大工技能科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	684.0 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1539.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		9 人	0 人	1 人	7 人	8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
5 人 (100%)	0 人 (0%)	5 人 (100%)	0 人 (0%)												
(主な就職、業界等) 日本ハウスホールディングス、(株)吉田産業、(株)ジェイベース等建設業界															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>丸のこ等従事者安全衛生教育修了</td> <td>③</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>2級建築施工管理技士一次検定</td> <td>②</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	丸のこ等従事者安全衛生教育修了	③	5	5	2級建築施工管理技士一次検定	②	5	0
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
丸のこ等従事者安全衛生教育修了	③	5	5												
2級建築施工管理技士一次検定	②	5	0												
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)															
(備考) (任意記載事項)															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9 人	1 人	11.1 %
(中途退学の主な理由) 就職		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	インテリア科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	798.0 単位時間／単位	370.5 単位時間／単位	1083.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	31 人	2 人	1 人	8 人	9 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18 人 (100%)	0 人 (0%)	15 人 (83.3%)	3 人 (16.7%)
(主な就職、業界等) 東京インテリア、コスモ警備、エージェンシー、TSK、池下設計、タカカツ、復建技術コンサルタント、エバーブ ルー、コメリ、Supriev Holding、テクノロジーワークス、郡中丸木、萩野工務店 等			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシート の書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報）			
資格・検定名	種別	受験 者数	合格 者数
2級リビングスタイリスト	③	17人	8人
福祉住環境コーディネーター検定試験3級	③	16人	3人
福祉住環境コーディネーター検定試験2級	③	1人	0人
色彩士検定試験3級	③	16人	12人
インテリアコーディネーター	③	1人	0人
2級インテリア設計士	③	15人	11人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
38 人	4 人	10.5 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適合、病気、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルズ講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	電気工事科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	997.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1225.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	54 人	1 人	1 人	5 人	6 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
29 人 (100%)	1 人 (3.4%)	28 人 (96.6%)	0 人 (0%)												
(主な就職、業界等) 日本電設工業株式会社、株式会社ユアテック、日本リーテック株式会社、太平電業（株）、東北電化工業株式会社他 電気工事系企業															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシート の書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一種電気工事士</td> <td>②</td> <td>29</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>第二種電気工事士</td> <td>②</td> <td>29</td> <td>23</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	第一種電気工事士	②	29	22	第二種電気工事士	②	29	23
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
第一種電気工事士	②	29	22												
第二種電気工事士	②	29	23												
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)															
(備考) (任意記載事項)															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
65 人	5 人	7.7 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應、就職、病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	機械CAD設計科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2052.0 単位時間／単位	826.5 単位時間／単位	85.5 単位時間／単位	1339.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		24 人	1 人	3 人	7 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																								
20 人 (100%)	0 人 (0%)	19 人 (95%)	1 人 (5%)																								
(主な就職、業界等) 山王テック株式会社、東北エプソン株式会社、株式会社ジー・イー・エス、株式会社旭洋精工、株式会社メイテックフィルダーズ その他機械設計関連企業																											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																											
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報）																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2次元CAD利用技術者試験2級</td> <td>③</td> <td>20</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>2次元CAD利用技術者試験1級(機械)</td> <td>③</td> <td>10</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>CGクリエイター検定ベーシック</td> <td>③</td> <td>20</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>Microsoft Office Specialist Excel</td> <td>③</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>Microsoft Office Specialist PowerPoint</td> <td>③</td> <td>20</td> <td>19</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2次元CAD利用技術者試験2級	③	20	14	2次元CAD利用技術者試験1級(機械)	③	10	4	CGクリエイター検定ベーシック	③	20	16	Microsoft Office Specialist Excel	③	20	20	Microsoft Office Specialist PowerPoint	③	20	19
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
2次元CAD利用技術者試験2級	③	20	14																								
2次元CAD利用技術者試験1級(機械)	③	10	4																								
CGクリエイター検定ベーシック	③	20	16																								
Microsoft Office Specialist Excel	③	20	20																								
Microsoft Office Specialist PowerPoint	③	20	19																								
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																											
(備考) (任意記載事項)																											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
32 人	2 人	6.3 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	ゲームクリエイター科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2052.0 単位時間／単位	655.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	2451.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			3135 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		59 人	0 人	5 人	8 人	13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
35 人 (100%)	0 人 (0%)	34 人 (97.1%)	1 人 (2.9%)												
(主な就職、業界等) 株式会社ヨドバシカメラ、株式会社TBC、株式会社 D・A・G、株式会社オルジェスタ															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CGエンジニア検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>35人</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>色彩士検定3級</td> <td>③</td> <td>20人</td> <td>18人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	CGエンジニア検定 ベーシック	③	35人	26人	色彩士検定3級	③	20人	18人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
CGエンジニア検定 ベーシック	③	35人	26人												
色彩士検定3級	③	20人	18人												
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)															
(備考) (任意記載事項)															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
61 人	9 人	14.8 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應、その他		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	ゲームエンジニア科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	3078.0 単位時間／単位	570.0 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	2622.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			3220.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150 人		95 人	1 人	5 人	4 人	9 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																
29 人 (100%)	0 人 (0%)	26 人 (89.7%)	3 人 (10.3%)																
(主な就職、業界等) 銀河ソフトウェア株式会社、株式会社ビー・エス・アール、株式会社ディックソリューションエンジニアリング、株式会社ヨドバシカメラ、他IT系企業																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報）																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CGエンジニア検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>29</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>C言語プログラミング能力認定試験 3級</td> <td>③</td> <td>29</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>Javaプログラミング能力認定試験 3級</td> <td>③</td> <td>21</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	CGエンジニア検定 ベーシック	③	29	25	C言語プログラミング能力認定試験 3級	③	29	19	Javaプログラミング能力認定試験 3級	③	21	16
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
CGエンジニア検定 ベーシック	③	29	25																
C言語プログラミング能力認定試験 3級	③	29	19																
Javaプログラミング能力認定試験 3級	③	21	16																
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																			
(備考) (任意記載事項)																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
106 人	13 人	12.3 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應、学業不振、病気、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	CGクリエイター科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2052.0 単位時間／単位	456.0 単位時間／単位	256.5 単位時間／単位	1539.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		97 人	0 人	2 人	5 人	7 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他								
47 人 (100%)	0 人 (0%)	36 人 (76.6%)	11 人 (23.4%)								
(主な就職、業界等) 株式会社exsa、株式会社サブリメーション、株式会社MAPPA											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。											
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和4年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報）											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C G クリエイター検定ベーシック</td> <td>③</td> <td>47人</td> <td>36人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	C G クリエイター検定ベーシック	③	47人	36人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数								
C G クリエイター検定ベーシック	③	47人	36人								
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)											
(備考)（任意記載事項） ASIA GRAPH 2022 第三部門（25歳以下）動画（アニメーション）作品公募部門優秀作品選出											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
101 人	6 人	5.9 %
(中途退学の主な理由) 学習意欲低下、病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	Webクリエイター科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	370.5 単位時間／単位	171.0 単位時間／単位	1710.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		37 人	0 人	5 人	3 人	8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																							
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																				
28 人 (100%)	0 人 (0%)	22 人 (78.6%)	6 人 (21.4%)																				
(主な就職、業界等) 株式会社メンバーズ アイリスオーヤマ株式会社 等 Web・デザイン関連企業																							
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																							
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報）																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Webデザイナー検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>28人</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td>マルチメディア検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>28人</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td>色彩士検定 3級</td> <td>③</td> <td>26人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定ジョブパス 3級</td> <td>③</td> <td>23人</td> <td>21人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	Webデザイナー検定 ベーシック	③	28人	23人	マルチメディア検定 ベーシック	③	28人	23人	色彩士検定 3級	③	26人	16人	ビジネス能力検定ジョブパス 3級	③	23人	21人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
Webデザイナー検定 ベーシック	③	28人	23人																				
マルチメディア検定 ベーシック	③	28人	23人																				
色彩士検定 3級	③	26人	16人																				
ビジネス能力検定ジョブパス 3級	③	23人	21人																				
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																							
(備考) (任意記載事項)																							

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
51 人	4 人	7.8 %
(中途退学の主な理由) 学生生活不適應、転学、病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	デジタルデザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	142.5 単位時間／単位	142.5 単位時間／単位	1966.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		40 人	0 人	2 人	4 人	6 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																								
15 人 (100%)	2 人 (13.3%)	11 人 (73.3%)	2 人 (13.3%)																								
(主な就職、業界等) アイリスオーヤマ株式会社、フォーシーズンデコスタイル株式会社、株式会社 画描屋、佐川印刷株式会社、株式会社 原町サイン																											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																											
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報）																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Webデザイナー検定ベーシック</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>CGクリエイター検定ベーシック</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>色彩士検定</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>DTP検定ディレクション</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定ジョブパス3級</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>13人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	Webデザイナー検定ベーシック	③	15人	11人	CGクリエイター検定ベーシック	③	15人	10人	色彩士検定	③	15人	14人	DTP検定ディレクション	③	13人	7人	ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	15人	13人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
Webデザイナー検定ベーシック	③	15人	11人																								
CGクリエイター検定ベーシック	③	15人	10人																								
色彩士検定	③	15人	14人																								
DTP検定ディレクション	③	13人	7人																								
ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	15人	13人																								
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																											
(備考)（任意記載事項） 一般社団法人 東北映像製作社協会「映像コンテスト」応募リーフレットデザイン																											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
39 人	2 人	5.1 %
(中途退学の主な理由) 病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	デジタルミュージック科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2052.0 単位時間／単位	541.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1681.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		44 人	1 人	1 人	5 人	6 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																
19 人 (100%)	0 人 (0%)	12 人 (63.2%)	7 人 (36.8%)																
(主な就職、業界等) 株式会社アンドアッシュ 株式会社アップビート ボルテック株式会社 株式会社セント等、音楽・音響関連企業及び一般企業																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報）																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MIDI検定 3級</td> <td>③</td> <td>20人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>マルチメディア検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>20人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>サウンドレコーディング技術認定試験</td> <td>③</td> <td>18人</td> <td>18人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	MIDI検定 3級	③	20人	16人	マルチメディア検定 ベーシック	③	20人	13人	サウンドレコーディング技術認定試験	③	18人	18人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
MIDI検定 3級	③	20人	16人																
マルチメディア検定 ベーシック	③	20人	13人																
サウンドレコーディング技術認定試験	③	18人	18人																
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																			
(備考) (任意記載事項)																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
45 人	3 人	6.7 %
(中途退学の主な理由) 病気、就職		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	映像放送科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2052.0 単位時間／単位	1026.0 単位時間／単位	85.5 単位時間／単位	1140.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		46 人	0 人	1 人	7 人	8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
23 人 (100%)	2 人 (8.7%)	20 人 (87%)	1 人 (4.3%)												
(主な就職、業界等) 株式会社NHKテクノロジーズ、株式会社千代田ビデオ、株式会社クリエイティブスタッフ、株式会社東北映像、株式会社東北共立															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一級陸上特殊無線技士</td> <td>①</td> <td>23人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>映像音響処理技術者(初級)</td> <td>③</td> <td>23人</td> <td>15人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	第一級陸上特殊無線技士	①	23人	18人	映像音響処理技術者(初級)	③	23人	15人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
第一級陸上特殊無線技士	①	23人	18人												
映像音響処理技術者(初級)	③	23人	15人												
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)															
(備考) (任意記載事項)															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
55 人	2 人	3.6 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	音響制作科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	826.5 単位時間／単位	85.5 単位時間／単位	1339.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		29 人	0 人	1 人	8 人	9 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
15 人 (100%)	0 人 (0%)	15 人 (100%)	0 人 (0%)												
(主な就職、業界等) 株式会社 東北共立 株式会社 総合舞台オペレーションズ															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舞台機構調整技能士 3級</td> <td>㊦</td> <td>18人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>サウンドレコーディング技術認定試験</td> <td>㊦</td> <td>13人</td> <td>10人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	舞台機構調整技能士 3級	㊦	18人	16人	サウンドレコーディング技術認定試験	㊦	13人	10人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
舞台機構調整技能士 3級	㊦	18人	16人												
サウンドレコーディング技術認定試験	㊦	13人	10人												
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)															
(備考) (任意記載事項)															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
33 人	2 人	6.1 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学 科 名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
総合情報ビジネス科	70,000 円	594,000 円	231,000 円	「その他」の欄に 計上した費用 1.施設設備費 2.教科書教材費 3.諸経費
モバイルアプリケーション科	70,000 円	660,000 円	261,000 円	
情報システム科	70,000 円	660,000 円	261,000 円	
A I システムエンジニア科	70,000 円	660,000 円	261,000 円	
ネットワークシステム科	70,000 円	660,000 円	261,000 円	
サイバーセキュリティ科	70,000 円	660,000 円	261,000 円	
A I テクノロジーエンジニア科	70,000 円	660,000 円	261,000 円	
高度 I T エンジニア科	70,000 円	660,000 円	261,000 円	
ゲームクリエイター科	70,000 円	660,000 円	251,000 円	
ゲームエンジニア科	70,000 円	660,000 円	251,000 円	
C G クリエーター科	70,000 円	672,000 円	256,000 円	
W e b クリエーター科	70,000 円	642,000 円	286,000 円	
デジタルデザイン科	70,000 円	642,000 円	286,000 円	
デジタルミュージック科	70,000 円	678,000 円	251,000 円	
映像放送科	70,000 円	684,000 円	261,000 円	
音響制作科	70,000 円	684,000 円	256,000 円	
建築科	70,000 円	636,000 円	286,000 円	
建築大工技能科	70,000 円	672,000 円	296,000 円	
インテリア科	70,000 円	624,000 円	296,000 円	
電気工事科	70,000 円	672,000 円	268,000 円	
機械 C A D 設計科	70,000 円	636,000 円	286,000 円	
国際ビジネス科 (留学生対象)	70,000 円	576,000 円	213,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				
<p>下記修学支援は入学時のみ適用</p> <p>試験特待生制度 本校独自の学力試験の結果により免除 75 名程度 試験特待生 A … 40 万円 試験特待生 B … 30 万円 試験特待生 C … 20 万円 試験特待生 D … 10 万円</p> <p>資格特待生制度 入学時に本校基準資格を取得している者 資格特待生 S … 40 万円 資格特待生 A … 30 万円 資格特待生 B … 20 万円 資格特待生 C … 10 万円</p> <p>親族入学制度 入学希望者の両親、兄弟姉妹が東日本航空専門学校、東北電子専門学校、東北保健医療専門学校のいずれかの卒業生か在学生の場合、7 万円免除</p>				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ・ホームページにて公表 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/2022_evaluation_1.pdf		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 毎年実施している自己評価の評価結果について、客観性・透明性を高めるとともに、関係業界との連携協力による学校運営の改善を図るため、卒業生及び当該学科の専攻分野に関する業界関係者等を委員とする『学校関係者評価委員会』(定数14名)を設置し、学校関係者評価を行うものとする。 学校関係者評価委員会では、教育理念・目的、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受け入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献、国際交流の11項目について評価を行うとともに、その評価結果や今後の改善方策についてとりまとめる。 学校は、これを自己評価結果とともにその後の改善方策の検討において活用し、教育活動及びその他の学校運営の改善を年度内に行い、専修学校教育の目的に沿った質の保証・向上に資するものとする。 今年度の学校関係者評価委員会(評価年度:2022年度)は、6月22日に開催し、評価結果は7月上旬に公表する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社ミヤギテレビサービス	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	企業等委員
宮城県産業技術総合センター	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員
株式会社ヒノタマ	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
スズキハイテック株式会社	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	企業等委員
卒業生	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	卒業生
株式会社東北共立	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
株式会社アルゴグラフィックス	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	企業等委員
宮城県電気工事工業組合	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	業界団体
株式会社リード・サイン	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	企業等委員
リコージャパン株式会社	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	企業等委員
一般社団法人宮城県建築士事務所協会	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	業界団体
株式会社JC-21教育センター	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員

公益財団法人画像情報教育振興協会	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	業界団体
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページにて公表 2021年度学校関係者評価結果 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/2021_evaluation_2.pdf 2022年度学校関係者評価結果 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/2022_evaluation_2.pdf 		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校基本情報 https://www.jc-21.ac.jp/ ・ 刊行物：入学案内 https://jc-21.ac.jp/inquiries/fcushion-shiryo/ より資料請求 電話：022-224-6501 より資料請求

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H104391010107
学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		222人	206人	234人
内 訳	第Ⅰ区分	133人	123人	
	第Ⅱ区分	56人	62人	
	第Ⅲ区分	33人	21人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				237人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	0人	—
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	—	—	—
「警告」の区分に連続して該当	—	—	—
計	—	11人	12人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）				
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	13人	0人	31人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	—	—	22人
計	17人	—	38人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。